

胸部X線写真の読影に関する保護者からの質問と回答（案）について

質問

内科医師の立場で質問です。

学校健診の胸部X線写真のコピーで、アスベスト肺の診断をするのはむずかしいのではないのでしょうか？

むしろ、なるべくたくさんの方が直接レントゲン撮影に参加できるしくみをつくる方が、精度や費用の面、手間の面ですぐれているのではないですか？担当医の意見はいかがでしょうか？

回答（案）

なるべくたくさんの方が直接レントゲン撮影に参加できるしくみをつくったらよいのでは、とのご提言ですが、元園児の方の健康診断（胸部直接レントゲン撮影を含む）については、X線ばく露によるリスクを最小としたいこと、ばく露量からみて、アスベスト肺の発症は予測していないこと、アスベストばく露から20年以内の中皮腫や肺がんの発症は極めて稀である点を考慮して、全園児が成年に達する平成31年以降に、委員会の判断による適切な時期と方法で実施することが「文京区立さしがや保育園アスベスト健康対策等実施要綱」で決定されています。

健康診断実施までの間に、他の目的で撮影した胸部X線写真があれば、それを散逸させないために、専門委員会にご提出いただき読影・保管する体制をつくるべきであるとの提言（「文京区立さしがや保育園アスベストばく露による健康対策等検討委員会報告書」より）に従って、今回の高校入学時健康診断で撮影した胸部X線写真の読影・保管事業を実施しました。

学校健診の胸部X線写真は、東京都の場合、当時の予測（被ばくの少ない直接撮影、またはデジタル化に移行する）に反して、まだ間接撮影が多く、アスベスト関連疾患の診断はまず困難ですが、撮影済みの胸部X線写真の有効活用と比較読影用データの蓄積という意味で実施しておりますので、ご理解の上ご協力を賜りたく存じます。